

グループホームまこと

運営推進会議 議事録

平成 29 年 7 月 19 日 (水)

14 時～15 時

小規模多機能型居宅介護まこと 2 階

司会 西崎・柴田

書記 石井

出席者

- ・ 山田 清典様 (ケアカレッジ 学校長様)
- ・ 坂井 秀子様 (東部北包括支援センター)

欠席

- ・ 木田 孝志様 (小規模ご家族様 電話連絡あり)
- ・ 荒谷 トキ様 (民生委員 電話連絡あり)

1 挨拶

2 運営推進会議とは

3 事業運営報告

- ・ 5 月・6 月のサービス利用状況 (小規模・グループホーム)
- ・ まことでのサービス内容、行事等 (小規模・グループホーム)
- ・ 利用者ご家族様からの声
- ・ 5 月・6 月の事故報告について
- ・ 地域包括支援センターからの声

4 質疑応答 (意見交流)

- ・ グループホームまことより

5 その他

- ・ 小規模多機能、グループホームより
- ・ 町内会活動、地域交流への参加について
- ・ 今後の活動 等

(2) 事業運営報告

- 5～6 月の介護度別サービス利用状況

(5月31日・6月30日付)

要介護	5月 小規模	6月 小規模	5月 グループホーム	6月 グループホーム
要支援1	1名	1名		
要支援2	0名	1名	0名	0名
要介護1	3名	4名	0名	0名
要介護2	9名	7名	1名	1名
要介護3	6名	6名	5名	5名
要介護4	4名	4名	4名	4名
要介護5	3名	3名	6名	5名
計	26名	26名	16名	15名

西崎：以前までは27名でしたが、現在26名となっています。介護度の変動は数名いました。

柴田：満床人数18名ですが、5月は16名、6月は15名まで下がっています。今年に入り入居者様の入退院が多く、退院せずそのまま退去になる方もいました。7月には3床の空きがありますが、7月末には18名に戻る見通しです。

■ 小規模まことでのサービス内容・行事等

- ・5月9日(火) 工作レク 「春の工作～チョウチョウ～を作ろう」
- ・5月19日(金) 調理レク 「春のおやきを作ろう」

西崎：18名程集まり、ホットプレートで作りおやつの時間に食べています。

- ・5月23日(火) 「外出レク～お花見をしにいこう茅沼公園」
- ・5月26日(金) 「外出レク～お花見をしにいこう別保公園」

西崎：両日とも茅沼公園を予定していましたが、別保の方が暖かく桜も散っていないため変更しました。花見をしつつ、ゲームも楽しんできました。

- ・6月7日(水) まこと工作～てるてる坊主の風鈴飾りを作ろう
- ・6月15日(木) まことクッキング～イチゴの淡雪羹を作ろう
- ・6月26日(月) ドライブレク～恋問館へ行こう！
- ・6月30日(金) ドライブレク～鶴居カフェへ行こう！

西崎：利用者様の声を尊重し、場所が違ってきます。どちらとも飲食が出来る場所だったため、各々好きな物を注文し楽しんで帰ってきています。

■ グループホームまことでのサービス内容・行事など

- ・5月2日(火) ナルクボランティア

柴田：毎月第1火曜日に入って頂き、折り紙や紙芝居、踊り等を利用者様と共に行ってくれています。

- ・ 5月 5日(金) 端午の節句

柴田：女性の方が多いですが、ケーキを作ってお祝いしています。

- ・ 5月 13日(土) 母の日レク&バイキング

柴田：本来であれば14日が母の日ですが、ご家族様が会いに来るのを想定してずらしてお祝いしました。今年はスタッフがタオルを使用し、熊のぬいぐるみを作りました。「お母さんありがとう」というカードと一緒に渡し、昼食はバイキング形式にして食事を楽しみました。

- ・ 5月 19日(金) お花見～別保公園～
- ・ 5月 22日(月) お花見～別保公園～
- ・ 5月 24日(水) お花見～市内ドライブ～
- ・ 5月 25日(木) お花見～別保公園と市内ドライブ～

柴田：1・2階の利用者様全員に参加してもらいたいという気持ちもあり、4日間に分け行っております。満開の時期はズレてしまいましたが、今年初の外出でしたので皆さん楽しまれていました。

- ・ 5月 26日(金) 芋団子汁作り
- ・ 6月 5日(月) ハンバーグ作り
- ・ 6月 6日(火) ナルクボランティア
- ・ 6月 13日(火) M○○散策と大型客船見学

柴田：市から大型客船の寄航日のお知らせが来ていましたので、その日に合わせて見学に行っています。

- ・ 6月 23日(金) M○○散策
- ・ 6月 28日(水) 誕生会（外食～なごやか亭）

日常の家事の手伝いや散歩、シルバー作品展への出品に向けて作品作りなども行っています。

柴田：帰宅願望が強い方は1日に多数回、散歩に出かけております。体力の限界もありホームに戻ってはきますが、また寂しくなって玄関先に向かい散歩に出かけています。今年はシルバー作品展が8月に繰り上げになったために、作品作りも始めております。

■利用者ご家族からの声

小規模

- * 父は他の事業所では拒否的だったのに、小規模だけは自ら進んで前向きに行っており、お風呂も嫌がらず入っていました。自宅でも小規模で歌った歌を楽しそうに歌っていたのが印象的でした。最後に良い所に通うことが出来て、父も良い思い出になったかと思えます。評判通り、良い所で良かったです。どうもありがとうございました。

(U.T様 家族より)

西崎：この方は103歳の高齢でした。1ヶ月程で体調が悪くなり入院し、退院はしたのですが家には戻れず、サ高住にてターミナルを迎え3日間程で亡くなられてしまい

ました。

- * 妻の歩行器の使い方が良くなったようです。介護度も要介護3から要介護1に下がりました。このまま利用を続けて訓練をしていければと考えております。どうか今後も宜しくお願いいたします。(H.S様 家族より)

西崎：始めは拒否的で、スタッフや利用者様を睨み付けることもありました。現在も休むこともありますが、ニコニコして利用されています。訓練も新しいメニューに取り組む等、関係性が出てきています。GHさんを見習って、利用者様の世界に合わせてケアをしていました。

- * 小規模多機能職員は全員好きだけど、なんかあの場所には行きたくない。理由はわからない。しばらくお休みしたいです。

(M.N様 本人様より)

西崎：5月1日からまことに来られず、職員がたまに顔を出したり、西崎が訪問し関係性を繋いでいる状態です。要支援1で身の回りの事は自分で出来る方です。小規模を利用している方は要介護3~4の方が多く認知症の方もいます。認知症をもった方がいきなりTVを消す事もあり、「何で職員が言わないんだ」という話がありました。職員との関係性は良好なんですけど、まことに誘うと「行かない」と言われています。お嫁様はまことを切りたくないという話しですが、ご本人がしっかりされているので、今後について話をする予定です。

グループホーム

- * (肺炎治療の為、入院中) 早く【まこと】に婆ちゃんを戻してやりたいんだ。まことの職員さんのほうが親身になって対応してくれるから。今は可哀想で...

(F様 ご家族より)

柴田：家族様には病院と介護事業所の目的が違う事をお伝えしました。食事や排泄介助について差があると指摘を頂き、その姿をみて「婆ちゃんが可哀想」という話をされていました。病院は病気を治す事を目的としていて、食事でも体力をつけるために栄養補給が最優先である事をお伝えしています。家族様も頭では分かっていますが、目の当たりにすると「可哀想」という気持ちになってしまうと話していました。現在は退院され、ホームでも1時間程かけて食事を摂られています。ほぼ完食され、栄養はしっかりと摂れている状態でご家族も安心されています。

- * 短い間でしたが、婆ちゃんが本当に大変な時にお世話になりました。色々考えて、沢山、作戦会議をしましたよね。婆ちゃんのいい顔も見れて良かったです。本当にお世話になりました。(K様 ご家族より)

柴田：市内の住宅型有料に入られていた方です。家族様からみてケアの仕方に不満があり、住宅型有料とGHの違いについて理解されておらず、介護事業所は全て同じという

捉え方をされていまして。認知症も進んでおり、住宅型有料でケアをするのが難しいのではないかという方でした。最初の3ヶ月は食事が摂れていました。笑顔も多く社交的で、上品かつ気品がある方でしたが、だんだんと食事が摂れなくなりました。受診した際は嚥下機能には問題ない、では認知機能の低下による問題ではないかとなりました。かかりつけ医が認知症専門の方であったため、ホームと直接話をさせて頂きました。食事が摂れず入院した際には、嚥下機能が問題だったと指摘されました。食事が摂れずGHからは対象外となり退去となりましたが、嚥下機能に問題がないと言われていた際は家族様とどうしたら食べてもらえるかを話し合いをしました。「お母さんが好きな銀だら作戦でいきましょう」という事になると、家族様が焼いて持ってきてくれていました。「銀だらが駄目になったら、次はかまぼこにしましょう」と昔から好きだった物を提供していきました。家族様の面会が多く、毎回相談させて頂き対応していました。

* 最期に父と母が同じ屋根の下に暮らし、共に過ごせる時間を作ってくれた事に感謝します。
(S様 ご家族様より)

柴田：この方は後の議題に挙げておりますので、ここでは控えさせていただきます。

西崎：これまでの中でご意見を聞かせて頂きたいです。山田先生から

山田様：好意的に書いてくれている所は、誇りに思っていてやっていくのが大事だと思います。

悪い所をゼロにする努力は大切ですが、ゼロにならないという事も覚えていた方が良いと思います。その人の価値観で、細かく追及しない方が良い。今まで良かった関係性が悪くなる事もある。

柴田：職員も家族様に苦手意識をもってしまう。次は何を言われるのかとびくついてしまいます。

山田様：萎縮してしまう方もいるので、フォローをしていくのが大事だと思います。

柴田：どうですか？

坂井様：すごいなと思っていました。小規模さんの方で行っている訓練は誰かが来て行ってくれるのですか？

西崎：はい。代表取締役山田勝雄とSTの葛西が、利用者様の身体状況を確認してメニューを作成し職員が出来るようにマニュアルも作ってくれています。評価表も作成し文面で利用者様の情報のやり取りをしています。

坂井様：GHさんの方では、何件看取りをされているんですか？

柴田：開設7年目になり、11名の方の終末期を含めて看取りをさせて頂きました。現在はホームではなく病院を選ぶ家族様が多くなってきています。往診医の考え方もバラバラで、GHまことは看取りの指針をあげて「本人が苦しくないように、慣れ親しんだ職員と家族様と一緒に」と考えていたのですが、最近は「病院で一度引き取ります」との話しになります。終末期になると経口摂取が難しくなりGHに戻れなく

なり、何日も入院できる訳ではないので療養病棟に移ってしまう事もあります。先生と意識共有するのが困難になってきています。

山田様：病院の先生が良いと言われたら、「いいのかな」と思っちゃいますよね。

柴田：そうなんです。大きな力なんですよね。

■5月・6月の事故報告について

	小規模 5月	小規模 6月	GH 5月	GH 6月
アクシデント	1件	0件	0件	0件
インシデント	3件	3件	1件	6件
ヒヤリハット	2件	1件	2件	0件

西崎：アクシデントについては「服薬提供ミス・セットミス」です。ロングステイで利用されている94歳の女性です。発生時刻は12時30分です。夜勤者と遅番でセットしていましたが、その時に薬を落としてしまいました。その時に食前と食後の薬を入れ間違えたと思われます。食前薬が残っている事に気付き、本人様は食事を終わっていました。NSへ連絡し食後薬と一緒に飲むよう指示がありました。職員からは薬を落とした際に食前と食後をしっかりと確認を行えばよかったと話がありました。対策として服薬セット時は一つずつ取り出し、確認してから行う。一人ずつセットをする事としています。

柴田：件数が伸びております。インシデントは帰宅願望の方が上着を着て玄関先で座って待っていました。雷さとうの配達員が来て鍵を開けましたが、配達員さんはいつものように扉をすぐ開けてしまい、その間にその方がすり抜けてしまいました。10m程で職員と歩きだしていたんですが、なぜ一人が利用者様の対応をしてから開錠しなかったのか。リビングには職員3名おり、利用者様が玄関にいる事も把握していました。その時に判断できず、事故に繋がったのではないかと考えております。

■ 地域包括支援センター様・居宅支援事業所様からの声

坂井様：今後も大変だとは思いますが、頑張ってください。外出レクも多いので、楽しみが多い施設だなと思います。

4 質疑応答（意見交流）

- ・ グループホームまことより

最近の利用者の動向について

柴田：GHまことは入退院が多くなっています。持病が悪化された方も中にはいまして、そこは防ぎようがないので仕方がないと思っております。例えばご家族様の声の4つ目、「最期に父と母が同じ屋根の下に暮らし、共に過ごせる時間を作ってくれた事

に感謝してます。」と4月の段階でお話をもらいました。元々3月まで在宅で暮らしていました。奥様が1年程前からGHまことに入居されています。お母様の初詣のお願い事は「お父さんともう1度一緒に暮らしたい」と話されていました。縁がありお父様のケアマネさんがGHまことを紹介して下さり、お母様の思いが叶えられるのではないかと感じていました。お父様が入居する事になった際には、空き部屋の関係で1・2階別々のお部屋で暮らす事になりました。開設当初には夫婦部屋を作っていましたので、二人仲良く過ごしてもらおうかなと家族様とも話しが進んでいました。2週間程はお父様がお母様のいる2階へ昼間は遊びに行っていました。ご夫婦は1年も会っておらず、最初は妻だという認識がありませんでした。時間が経つことにより「やっぱりうちの母ちゃんは最高だ」と一致してきていました。その後お父様が「腰が痛んだよな」という話しが出てきて、起き上がりが難しく長い時間車椅子に乗っている事が難しくなってきました。お母様の所に誘うも「腰が痛いから止めておこうかな」という話しが1週間程続きました。腰の痛みが強いせいで食事量が減っていきました。この段階で家族様に受診を依頼し、前立腺がんの末期、ステージ4との診断でした。腰痛は癌性疼痛だったと後になってわかりました。入院して5日目にはお父様はお亡くなりになりました。入居前には「おう！」と話しをされて食事も問題なく、3週間で一気に落ちてしまいました。色々考えました。「本当にここに連れてきて良かったのか」「お母様の願いと一緒に暮らしたかったな。無理をしてでも連れてきて良かったのかな」と葛藤しました。ここに載せた言葉は、最後の家族様の言葉です。3週間しか一緒に入れなかったけれど、この選択肢は良かったのだと今、思っています。先程もお話しましたが、GHまことの看取りの仕方について確信を持っていました。しかし、最近訪問診療を行っている病院が増え、大きな病院の先生は検査や入院を勧められ介護職員の頭が付いていかないんです。「看取りって何なんだ」と揺らいでいる状態です。前提は本人の思いで、今は判断能力が衰えています。「元気だった頃には家族のそばで」という思いが強かったのではないかと考え家族様の気持ちを優先にと考えます。ただ先生の言葉が強く、意見が出来ないでいます。

山田様：利用者さんや家族さんも判断できないし、先生に言われるとそうかなと思ってしまいますよね。自分の思いもあっても、先生に言われると「そうですか」と言ってしまうですね。

柴田：多分それも、看取りの1つなかなとは思いますが自分の中で納得できていないんです。一昨年看取った方は病院で駄目だと言われても、「ホームだったら看れます」と家族様と先生を説得し納得してもらいました。その後3ヶ月は食事も摂れていたんですが、老衰という形で最期は亡くなられました。意外と家族は希薄でどこでもという事でしたが、出過ぎた事だと思いましたが、私が病院で死なせたくないという気持ちが強くて、訪問診療医を動かす力があつたんです。今は先生の考えに追いついていけてなく、GHまことの看取りをどうすべきか考えています。

西崎：小規模も対象の方はおり、市ともやり取りしています。ただ最終的には医者で左右

されるのかなと思いました。

柴田：その時はこの方を私たちが 4 年間見てきたんだという自信がありました。そこがなぜ揺らいでしまったのか・・・

山田様：医者 of 権威じゃないでしょうか。

柴田：負けますね。看取りを行うに当たって、先生の協力がないと成立しないんです。

反発していた先生もこのときは理解をして頂き、最期まで協力して下さいました。

家族様も「ここで良かったね。」と言って下さいました。

山田様：このままブレずにやって行ってほしいです。

5 その他

・今後の活動について

(小規模多機能)

7月5日(水) お買い物に行きましょう～(コープさっぽろ貝塚店)

7月14日(金) ドライブに出かけよう～in 厚岸

7月18日(火) ドライブに出かけよう～in 厚岸

7月29日(土) 第8回 まこと夏祭り

8月5日(月) お買い物に行きましょう～(コープさっぽろ貝塚店)

8月16日(水) まことクッキング夏菓子を作ろう！

8月22日(火) お出かけレク運動公園に行こう！

8月25日(金) お出かけレク運動公園に行こう！

(グループホーム)

7月

シルバー作品展用の作品作り・焼肉レク・誕生会・まこと夏祭り

8月

シルバー作品展見学・町内会盆踊り・花火会 等

次回開催予定日 平成 29 年 9 月 20 日 (水) 14 時 小規模まこと 2 階リビングにて開催